

KANSAI\*OSAKA

# 文化力

No.124

2016/SUMMER・夏

関西から

文化力  
POWER OF CULTURE

特集・座談会

新文化庁長官 宮田亮平氏を囲んで  
これからの文化政策と関西経済界の取り組み

宮田亮平氏・寺田千代乃氏・鳥井信吾氏・蔭山秀二氏・堀井良殷

日本万国博覧会記念基金助成事業

ヴァイオリニスト 五嶋みどりさん来訪

平成28年度助成事業のご紹介

アーツサポート関西

「サポーター感謝のつどい」開催

上方落語若手噺家グランプリ優勝者決定

■特集■ 座談会 ■

新文化庁長官 **宮田亮平氏を囲んで**—  
**これからの文化政策と  
関西経済界の取り組み**

**文** 化庁の京都移転や、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの全国展開など、関西・大阪は、今まさに文化によって活性化を推進する絶好の機会にある。今回は、今年4月1日に文化庁長官に就任された宮田亮平氏から、今後の文化政策に対する考えを伺うとともに、日本の文化力向上に平素取り組んでいる関西の企業トップの方々と、これからの文化振興のありかたについて語り合っていた。

● アートコーポレーション株式会社  
代表取締役社長  
**寺田千代乃氏**  
(公益社団法人関西経済連合会 都市創造・  
文化観光委員会 担当副会長)

● サントリーホールディングス株式会社  
代表取締役副会長  
**鳥井信吾氏**  
(大阪商工会議所 副会頭、スポーツ・  
文化振興特別委員会 委員長)



文化庁長官  
**宮田亮平氏**  
(前東京藝術大学学長、金工作家)



## 文化の行商人・3つの輪

**堀井** 宮田長官にはご就任早々のお忙しいなか、大阪にお越しいただき誠にありがとうございます。今日は、関西・大阪でご活躍の経済界のトップの方々と共に、関西から日本の文化力を向上させる方策などについて意見を交わしたいと思います。まずは宮田長官から、これからの日本の文化政策に対するお考えをお聞かせください。

**宮田** お招きいただきありがとうございます。私は、文化と経済は両輪の関係にあるべきだと考えていますが、これに加えて、感性に基づくサイエンスも必要だと思っています。文化とは、アーツとマネジメントとサイエンスの“3つの輪”のバランスの良い関係によって、生きたものになるということです。例えば工業製品で、性能や使い勝手がいくら優れていても、見た目の美しさが備わっていなければ市場競争で勝ち残ることができません。寺田さんの会社も、引越しや物流というサービスに、今まで以上の「安心・安全」という高い付加価値を付

けられたことで、多くの顧客の支持・共感を得ておられます。これこそは文化であり、日本人の力のなせる技です。その意味で、東京の機能性や情報発信力と関西の伝統の中で培ってきた文化や企業家精神を融合させることで、日本の魅力が大いに発揮され、ひいては国の発展にもつながっていくと思います。

東京藝術大学の学長時代、私の仕事は「芸術の行商人」だと宣言しました。芸術を伝えるためには、人が来るのを待っているのではなく、自分から持っていかなければならないという考えです。そこで東京藝術大学は、企業と協力して“クローン文化財”といわれる高精度な複製技術を開発し、法隆寺の釈迦三尊像を完全に復元しました。この技術を使えば、門外不出の文化財でも世界各地でご覧いただけるようになり、日本文化の素晴らしさを、今まで以上にアピールできます。今も“文化の行商人”として、文化庁のさまざまな取り組みを国内外の多くの人に知ってほしいと思っています。そ

のためには新聞やテレビといったメディアの方々や意見交換をしたり、例えば「日本遺産事業」などを記事や番組で取り上げてもらえる機会を増やそうと思っています。メディアの影響力は大きく、今春、東京都美術館で開催した「若冲展」は、NHKの「日曜美術館」や「美の壺」に取り上げられたこともあって人気に火がつき、連日入場待ちの長い列ができました。

また、東京藝術大学では、平成28年度からグローバル人材育成機能の強化を図るべく大学院に「国際芸術創造研究科」を設置し、キュレーターの長谷川祐子さんを教授に招き入れました。すると、これを知ったフランス大使館が、すぐさま彼女に芸術文化勲章を授与しました(註：長谷川氏は世界各地のビエンナーレでキュレーターを務めた実績などから文化庁文化交流使に任命され、パリを拠点にアーティストの国際交流に先駆的役割を果たした)。フランスは人を顕彰するのが実にうまいですね。鳥井さんの会社も「サントリー地域文化賞」を設けて地域発展の功労者を顕彰しておられます。私は、こうした若い人に夢を与える顕彰は必要だし、文化庁の大事な仕事だと思っています。

株式会社 三井住友銀行  
取締役副会長

**蔭山秀一氏**

(一般社団法人関西経済同友会 代表幹事)

司会  
公益財団法人関西・大阪21世紀協会  
理事長

**堀井良殷**



# 「文化と経済と科学の良いバランスが 生きた文化をつくる」

宮田氏

文化庁の関西への移転が決まったし、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムも始まるし、関西は今、文化、スポーツ、ツーリズムの絶好のチャンスが訪れたと感じます。この機会に関西の素晴らしさを力強く発信し、競争力を高めるために、とくに経済界の方々には文化プログラムの推進など、積極的なご参加をいただきたいと願っています。

**堀井** とても希望が持てるお話をいただき、嬉しく思います。これからは皆様ご自由にご発言いただきたいのですが、まずは、「はなやか関西」など関西のブランディング活動の火付け役である寺田さんは、今の宮田長官のお話を聞きになっていかがでしょうか。

## 関西のブランディング活動

**寺田** 宮田長官には関西への熱い思いとエールをお送りいただき、とても心強い思いをいたしました。関西では、これまで10年以上にわたって、経済界などが中心になって大阪・関西の地域文化のブランディング活動に取り組んできました。発端は大阪のブランド力アップを目的とした「大阪ブランドコミティ(2004~06年)」\*1の活動です。その後、この経験を活かして、関西経済連合会において関西地域の10府県で「はなやか関西(2009年~)」というブランディングコンセプトを立て、官民一体となった地域ブランドの向上活動を始めました。2014年には活動のシンボルマークをつくり、関西広域のインバウンド促進に向けて、外国人旅行者向けのホームページや印刷物などに使用しています。ピンバッジもつくりましたので、ぜひ宮田長官にご覧いただきたいと思います。

**宮田** (バッジの図柄を見て)これはすごい。鯖江市のメガネに熊野古道、いろんなものが入ってる。

**寺田** そうなんです。この小さなバッジに22の関西ブランドがデザインされていて、皆さん驚かれます。「はなやか関西」に込めた思いのひとつに、“歴史・文化と共に生きる関西”というのがあります。関西では2010年に関西広域連合が発足し、防災面や観光面での連携は進んでいます。今後は、文化庁も推進されているように文化による広域連携を是非進めていきたいと考えています。



「はなやか関西」ピンバッジ

**堀井** 関西経済連合会が「はなやか関西」を推進される一方で、関西経済同友会は、文化で地域を活性化する方策を探るため、鳥井さんを委員長とする「歴史・文化振興委員会」を設置し、イギリスの文化政策を研究しました。とりわけスコットランドの文化政策が参考になるとして、2011年に同委員会で現地を視察し、スコットランドの芸術文化産業を振興・支援する「クリエイティブ・スコットランド」や「アーツカウンシル」などをヒヤリングしました。

## “文化宝くじ”という起爆剤

**鳥井** イギリスには文化活動への助成金を預かり配分する「アーツカウンシル」という第三者機関があります。予算は1,200億円で、助成を受ける団体の規模や文化への貢献度などを評価して配分されますが、それに関して出資者である政府は口出しをしてはいけなくなっています。また、予算の内訳は67%が政府の助成金で、33%が宝くじの収入です。つまり、宝くじによって400億円もの収入があり、これをすべて文化振興に使い切ることができるんです。私は、この手法に大いに学ぶべきものがあると思いました。

**堀井** 大阪でも「近畿宝くじ」の収益金が「大阪マラソン」や「大阪・光の響宴」などに配分されていますね。そこで思うのですが、収益金の使い道を文化振興に限定した、いわば“文化宝くじ”を新しく発行してはどうでしょうか。

**宮田** それはいいアイデアですね。関西広域連合の力も借りて、宝くじ全体の売り上げ向上に寄与するという名目が立てば、文化宝くじ案も前進するでしょう。もちろん文化振興は宝くじだけではなく、寄付文化を醸成することと合わせて考えていただきたいです。

**蔭山** いいですね、“関西広域文化宝くじ”。“文化庁関西移転記念宝くじ”はいかがですか(笑)。近年、アベノミクスが叫ばれていますが、庶民にとっては景気浮揚の実感に乏しく、文化が大事だと分かっても財布のひもは固い。企業も資金に余裕がない。そうした状況にあって、宝くじは遊び心もあって、文化振興を前進させる起爆剤になりますね。

## 国の呼びかけに民が立ち上る

**蔭山** 関西では、鳥井さんが関西経済同友会の代表幹事をされていた2014年に、「アーツサポート関西(運営委員長:鳥井信吾氏)」という民間の文化支援組織を立ち上げました。市民や民間企業の寄付で関西の伝統的な文化を守ったり、若手アーティストの育成をめざすものです。大阪府及び大阪市が行政予算で行う「大阪アーツカウンシル」とは一線を画し、こちらは支援するジャンルや団体の活動などを指定でき、支援者の思いを自由かつダイレクトに届けています。例えば伝統芸能の文楽を支援する目的で、学生がワンコイン

(500円)で文楽を鑑賞できるよう、人形浄瑠璃文楽座への寄付がありました(注:京阪神ビルディング文楽支援基金)。また、1社だけで支援を続けるのはしんどいですから、各企業がリレー形式で数年にわたり支援を続けようという企画もあります。

**堀井** 昨年从天満天神繁昌亭で実施されている「上方落語若手噺家グランプリ」は、寺田さん個人の寄付で実現しましたね。

**寺田** 10年間にわたって若手噺家に賞を出す取り組みです。4日間の予選は、すべて満席で、今年は笑福亭たまさんがグランプリを受賞されました。

**蔭山** そうした寄付に加えて、アーツサポート関西では、サントリーさんのご協力もあって、昨年から「寄付型自動販売機」を設置することとなりました。自販機のオーナーさんをお願いして、飲料水の売り上げの一部を文化支援に寄付していただくものです。わざわざ銀行へ足を運んで寄付していただく手間が省けますし、これが普及すれば継続的かつ多くの寄付が見込めます。大阪人らしい合理的な発想ですね。

**鳥井** 行政の政策は公平性の原則が働きますから、文化予算の用途についても杓子定規で融通が効きにくくなります。ですから公と民で文化支援のあり方を線引きして、行政は公平性の原則で、一方、民はメリハリの効いた助成を組み合わせる。公は金を出しても、むしろ民に自由にやらしてもらわないと、本当の文化は発展しません。

**堀井** 国の文化政策の予算は大部分が地方自治体を通して民に流れてきますが、自治体によって文化行政に対するスタンスはまちまちです。文化予算が大きく削減されてきた大阪では、せめてもの努力として、タニマチ的な風土・気質から民によるアーツサポート関西が生まれました。文化振興について国(文化庁)の予算に直接民間が応募できるラインがあればどんなに良いかと希望しています。



上方落語若手噺家グランプリ表彰式

## 「食博など、関西の多彩な文化を広く発信する絶好のチャンス」 蔭山氏



域活性化・国際発信推進事業」の採択一覧を見ると、大阪府は1,353万円で、滋賀県(6,141万円)、京都府(1億9,380万円)、兵庫県(4,607万円)、奈良県(6,500万円)、鳥取県(5,070万円)、徳島県(7,043万円)に比べて格段に少ない。悲しいかな、私たちが行政に対して、「もっと国に申請してほしい」と訴えなければならぬような状況です。また、大阪府の採択額を府民一人あたりに換算すると、わずか80円です。これはあんまりですので、関西経済同友会は「脱・80円文化政策」という緊急アピールを考えているところです。

**寺田** 文化振興の官民協働の取り組みは、京都のほうが格段に進んでいますね。大阪府・市は文楽への補助金削減問題に象徴されるように、残念ながら文化振興への取り組みは弱いと言わざるを得ません。蔭山さんが示された通り、せっかく国が助成してくれるというのに、大阪府・市への採択事業が他の都道府県に比べて非常に少ないのは、新たに文化政策を広げようという意思が低いことの表れのように感じます。行政に期待するのが難しいのであれば、公益法人やNPOが直接国に申請するしかありません。

**宮田** 文化振興について国と民間が直接コンタクトするというご提案は、もっともだと思います。私は文化庁長官に就任したときの職員への挨拶で、毎日書類ばかりとらめっこするのではなく、もっと現場に出て、生きた情報交換をすることを奨励しました。私は文化庁と民間がもっと情報共有し、連携して良いと思います。国によっては公共建築費用の1%を芸術・文化関連に充当するという「1% for Arts」が制度化されています。日本でもこうした取り組みを進めたいと思っています。そうすれば、日本の文化振興は一気に前進するでしょう。先ほどの寄付型自販機のお話は、その民間版のようなもので、とてもいい取り組みですね。

**蔭山** 堀井さんが「自治体によって文化行政に対するスタンスはまちまち」とおっしゃる通り、文化庁が発表した平成28年度の「文化芸術による地

# 「大阪城を活かした舞台芸術の祭典で 大阪を文化の都に」

鳥井氏

## 2020年を超えて

**宮田** 現在、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さまざまな文化プログラムに取り組んでいます。東京大会の文化プログラムは、ロンドン大会を大きく上回る全国津々浦々で20万件を目標にしており、それに伴う経済効果もあげたい。関西でも、だれかがリーダーシップをとって組織的に取り組む気運を高めていただきたいと思います。

**寺田** 関西広域連合や関西経済連合会、関西・大阪21世紀協会などが幹事となって、今年、「はなやか関西文化戦略会議」が設けられました。私はその委員ですが、関西としてまとまった文化プログラムを行うのは、いまだ検討段階といったところです。

**堀井** 関西経済同友会では、蔭山さんを委員長として「関西2019・20・21委員会」を設置され、オリンピック文化プログラムを重要な柱のひとつにされています。

**蔭山** 関西では2019年にラグビーワールドカップ、2021年に関西ワールドマスターズゲームズと、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを挟んで大きなスポーツイベントの開催が予定されています。国の観光政策によってインバウンドが急増する今、この3大スポーツイベントをオール関西で盛り上げ、関西の多彩な文化を広く発信する絶好のチャンスです。そして2020年以降も文化の諸活動を広げ、関西全体の持続的な活性化につなげていくべきだと思います。

**宮田** 東京オリンピック・パラリンピックが終わっても、文化プログラムの火を消さないでほしいですね。ぜひ2020年以降も続けていただくよう期待します。

**鳥井** 文化プログラムのレガシーを次代に引き継ぐためには、文化をプロデュースする人材を育て、地域の歴史や文化をストーリー化して発信することが大事だと思います。先ほど、関西経済同友会の歴史・文化振興委員会でイギリスの文化政策を視察したお話をしましたが、その時、スコットランドの首都であるエディンバラで開催される「エディンバラフェスティバル」も視察しました。エディンバラでは、1年を通じて音楽やアートなど12のフェスティバルが行われます。8月はそのピークを迎え、町のシンボルであるエディンバラ城を中心に、演劇や音楽、ダンスなど、さまざまなフェスティバルが同時開催されます。これが世界的に有名な「エディンバラフェスティバル」です。期間中は人口48万人の町が観光客などで100万人に膨れ、約175億円の経済効果と5,420件の雇用が創出されるそうです。国際的な知名度も高く、世界中から約2万人のアーティストと2,000人のメディア関係者が集まり1,000人近いプロデューサーが新人発掘のためにやってきます。また、こうした集客力を目当てに、さまざまな自主公演のフリンジ（周辺イベント）が行われます。フリンジは誰でも参加できるのですが、非常にレベルが高く、フリンジを楽しみに来るファンも

多い。一流のアーティストでも、この路上パフォーマンスに出たいというほどです。このエディンバラフェスティバルをモデルにして、大阪で舞台芸術の祭典を行うのもおもしろいかもしれません。エディンバラフェスティバルが「エディンバラ城」を中心に開催されたように、大阪では、文化レガシーの象徴ともいえるべき「大阪城」をコアにして、フリンジを膨らませる。大阪にはストリートダンスのチームが多く、レベルの高い路上パフォーマーも多い。そうしたアーティストをプロデュースできる人材育成は不可欠ですね。とにかく、海外からの観光客に関西の何を見せるのか。ヨーロッパの歴史は皆知っているが、日本の歴史は難しい。歴史的建物だけでなく、そこにあるのは生きたフェスティバル、伝統的な祭りも含めた「大阪城フェスティバル」がキーになると思う。

**蔭山** 関西経済同友会の芸術・文化委員会でも、文化プログラムについて話し合っており、実にさまざまな意見や提案が出されて収拾がつかないほどです。例えば、関西には長い歴史をもつ企業が多く、中には彫刻や絵画などの稀少な美術品を持っている会社も多い。そこで、それを集めて展覧会をしたらどうかというアイデアがあります。しかし、美術館への運搬費用や保険代を見積もったら多額になることがわかり、今度は各企業を会場にすればどうかという意見が出されました。また、大阪では毎年夏に、エディンバラ城よろしく大阪城を中心とした「大阪城フェスティバル」を開催していますし、来年4月には4年に1度の「食博覧会・大阪」が開催されます。総事業費は10億円を超える規模です。これらをゼロから立ち上げるとなると負担が大きすぎますが、企業が持っている文化財を活用したり、既存の行事や催事をブラッシュアップす



エディンバラ城（スコットランド）



大阪城サマーフェスティバル  
(2012年・大阪城西の丸ステージ)

れば、強力な文化プログラムとして、しかも継続開催できます。和食がユネスコの世界無形文化遺産になったことで世界的にも注目されています。4年に一度ですから、次は2021年で、2020年

の東京オリンピック・パラリンピック以降も続いて発信していきます。この「大阪城フェスティバル」と「食博覧会・大阪」は、関西・大阪の重要な文化プログラムではないでしょうか。

**宮田** 既存の文化財やイベントをブラッシュアップすることは、関西にそれだけ多彩で歴史に培われた文化があるという証拠ですね。外国に行くとき改めて日本文化の素晴らしさに気付くように、関西に根付いている文化を文化プログラムに活用することで、地域の方々が改めて自分たちの文化の素晴らしさを知る良いきっかけにもなるでしょう。

**蔭山** 関西には美術館や博物館が多く、場所によっては近接しているところもあり、それらをハシゴして楽しむことも可能です。そうした美術館や博物館が共同で一つのテーマやストーリーをつくり、回遊して楽しめるようにしてもいいですね。

**宮田** 東京でそれをしたことがあります。私が東京藝術大学の学長時代に文化庁と共同で立ち上げた、「上野[文化の杜]新構想」です。上野公園を中心とした一帯には、博物館や美術館、動物園など日本有数の文化施設が集積しており、それらの共通パスポートを作ったんです。そうして1館だと1,500円ぐらい入館料がかかるところを、800~1,000円程度で入館できるようにしたところ、大好評でした。この共通パスポートを開発したことで、各文化施設で連携した企画も生まれ、その相乗効果で入館者増につながりました。その結果、年間1,200万人程度だった上野地区の文化施設への有料入館者が、一気に2,000万人ぐらいに増えたんです。直近の例では、東京国立博物館でバーミヤン展をしているときに、東京藝術大学の美術館で東京国立博物館とは違う観点でバーミヤンを紹介する企画を打ちました。そうすると、どちらのバーミヤンも楽しめるし、楽しみ方も広がります。東京国立博物館が混雑していたら、東京藝術大学の美術館を先に見て、東京国立博物館が空いたころを見計らってそちらに行くといった融通も効く。今年は、ル・コ

ルビジェの建築作品が2016年の世界文化遺産に登録される見通しとなったことも、入場者増の追い風となっています(注：上野の国立西洋美術館はル・コルビジェの設計、7月17日登録

決定)。今後は海外の人たちへの情報発信も考えて、Wi-Fi(無線LANを利用したインターネット接続サービス)やポータルサイトも導入しようということになりました。これは東京の一例ですが、既存のものを有効活用するために、こうしたアイデアを出していくことは必要です。

## 文化庁関西移転の意義

**宮田** 文化庁の庁舎は京都に移転されますが、私どもは「関西に行くぞ」という意気込みで臨んでいます。たしかに京都には日本の伝統文化がたくさんありますが、それだけを守るのが文化庁ではありません。そもそも文化財を保護するだけなら、支局を出せば済む話です。本庁を移すとなると、それだけではない新たな目的が必要です。すなわち、日本の文化の発祥の地ともいえるべき関西に基軸をおくことで、日本が本来持つ文化の力を大いに発揮し、ひいては地方から日本全体を活性化させ、経済力の発展にもつなげていくことです。こうして将来の文化を考えた新しい取り組みを行うことによって、日本で生きていることにプライドを持てるような環境づくりにもつなげたい。そのためには民間活力を積極的に受け入れていくことと同時に、民間の活動に対して文化庁がお墨付きを出すことも大事な仕事だと思っています。

**寺田** 冒頭、宮田長官が「若い人に夢を与える顕彰は必要かつ大事なことだ」とお話しされましたが、当社でも従業員に夢や目標を聞くと、当社でいうところの「リーダー賞」をとることだと答える人が多くいます。私がアーツサポート関西を通して支援している「上方落語若手噺家グランプリ」でも、若手の噺家さんはタイトルをとることをすごく励みにされていて、真剣そのものです。顕彰は個人のプライドを高めると同時に全体のレベルアップにもつながるため、私も非常に大事なことだと思います。民活に対するお墨付きも励みになります。

**鳥井** 褒められて怒る人はいませんからね。寺田さんがおっしゃるような動機付けは大事だと思います。

**蔭山** もともと関西の経済人は、文化庁の関西移転について、官庁が一つ移転してきたという話で済ませてはいけないう認識もっています。今、あらためて宮田長官から関西移転の意義をお聞きして、心強い思いをすると同時に、私たちが何かしなければいけないと強く思いました。

**宮田** 関西の経済界の方々には、私どもをととても歓迎してくださり感謝しています。

## 「文化庁が関西で考え 関西で決める意義はととても大きい」

寺田氏

# 「関西の文化振興運動をオーケストレーションで」

堀井

**寺田** 文化庁の関西移転には、大きな期待を持っています。文化政策に限らず、これまでは「東京」で考え「東京」で決めるのが当たり前とされ、「中央」対「地域」という構図がありました。しかし、これからは地域が世界と直結する時代を迎えます。そうした意味で、文化庁が「関西」で考え「関西」で決める意義はとても大きいと思います。また、今年3月に関西広域連合や関西経済

連合会など関西の官民約60団体がまとまり、「関西国際観光推進本部」が発足しました。文化は観光振興を支える力でもありますから、文化庁の関西移転を好機ととらえ、先行する京都の動きのみに頼るのではなく、文化庁と関西経済界が一体となって、関西の文化政策の長期ビジョンを作っていく動きになればいいと考えています。

**蔭山** 関西国際観光推進本部が設置され、関西ワールドマスタースターズゲームズや「食博覧会・大阪」を控えた今、文化は、関西が結束する格好のコンテンツですね。

**寺田** 今年1月7日発行のニューヨークタイムズに「2016年に行くべき世界の52か所」という記事があり、日本では唯一“Kansai”がランキングされました。京都でも、大阪でも、神戸でもなく、「関西」という地域名が取り上げられたんです。これまで外国の人に“Kansai”といってもピンときてもらえませんでしたから、やっとここまでできたかという印象を持ちました。近ごろは、官公庁でも「近畿」を「関西」に言い換えられているところも増えてきたようです。

**宮田** 外国には「関西」という呼び名をもっと知らしめたいですね。

**鳥井** これまでの文化政策は、国から地方自治体を經由して民に行くという構図でしたが、文化庁の関西移転を機に、

国から民に直接働きかける民間活力をさらに活かした文化政策を推進していただければと思いますし、私たちもそれに応えていければと思います。

**堀井** 武士の文化は上意下達で、権力トップから雨だれ式に指示系統が下りるクリスマスツリーのようなスタイルなのに対し、関西は水平的なネットワークの文化だと言えるでしょう。大阪大学の西尾章治郎総長は、阪大がもつ多様な「知」を連携させ（協奏）、共に創出（共創）することで、社会や世界に還元する「知の協奏と共創」というビジョンを示されました。私は、この考えは、関西の文化振興システムにもぴったり当てはまると思います。オーケストラがバイオリンやトランペットなど音色の異なる楽器の協奏によって感動的なハーモニーを創り出すように、関西の文化振興運動には、そうした水平ネットワークのオーケストレーションがふさわしいと思います。是非、宮田長官には、協奏と共創の力強いタクトを振っていただきたいと願っています。本日はどうもありがとうございました。

(2016年6月／大阪市内にて)

## \*1 大阪ブランドコミッティ

2003年に大阪府企画調整部の呼びかけで、大阪の魅力や強みを国内外に発信し、大阪のイメージ向上と産業や経済の活性化につながる官民協働プロジェクト「大阪ブランド戦略検討委員会（委員長：堀井良殷）」が発足。翌04年に提言書「Brand-New Osaka」を採択して活動は一旦区切りをつけたが、当時、関西経済同友会代表幹事だった寺田千代乃氏が「大阪のブランディング運動は提言書を採択して終わるのではなく、今後も継続してオール大阪で取り組むべき問題である」とし、この運動に毎年1,000万円ずつ3年間で3,000万円の私財を投じて取り組む意向を表明。これに行政が同調し、大阪府と大阪市がそれぞれ同額を出資して年間3,000万円の活動費をもって「大阪ブランドコミッティ」を立ち上げ、2004～06年にかけて、大阪をブランディングするさまざまな活動を行った。



## 第22代文化庁長官 宮田亮平氏プロフィール

金工作家。新潟県佐渡に蠟型鑄金作家の2代目宮田藍堂の3男として生まれる。イルカをモチーフとした「シュプリングン」シリーズなどの作品で、「宮田亮平展」をはじめとして、国内外で多数の展覧会に参加。「日展」および「日本現代工芸美術展」にて内閣総理大臣賞など数々の賞を受賞し、2012年に日本芸術院賞を受賞。東京藝術大学の学長を10年務めた後、2016年4月より文化庁長官に就任。



# 日本最大級の「食」のイベント 「'17食博覧会・大阪」 いよいよ来春開催

The International Food Expo UTAGE in OSAKA

2017年4月28日(金)～5月7日(日)

インテックス大阪(大阪市住之江区南港北1-5-102)  
11:00～20:00(最終日は19:00)

入場料 大人/前売1,600円(当日2,200円)  
子ども/前売 800円(当日1,100円)

主催 食博覧会実行委員会 (一社)大阪外食産業協会  
(公財)関西・大阪21世紀協会



ホームページで情報発信中! [食博覧会2017](#) [検索](#)

## 注目は初企画“北前船寄港地ゾーン”

関西・大阪21世紀協会が総合監修を務める「食博覧会・大阪」が、いよいよ来年のゴールデンウィークに開催される。日本の外食産業を広くアピールする目的ではじまったこのイベントは、1985年の第1回以来4年毎に開催し、2017年で第9回、32年間にわたる取り組みだ。今や大阪から和食文化を内外に発信する場となっている。

食博は47都道府県のご当地グルメが楽しめるほか、世界の料理・菓子・酒類や食育、食に関する祭りやエンターテインメントなど、大人から子どもまで楽しめる多彩なプログラムで、期間中は60万人を超える(8回累計480万人)来場者で賑わう。前回(2013年)は387企業・団体(660ブース)が出展し、海外からも22か国・地域が参加。宴テーマ館やくだおれ横丁館、日本・世界の味覚館、食博劇場などで連日大好評を博した。今回は、初企画として“北前船寄港地ゾーン”を設け、酒田市(山

形県)をはじめ、大阪と関わりの深い寄港各地の特産品が紹介される。

北前船は江戸時代に“天下の台所”と謳われた大坂の繁栄の礎をつくった西回り(日本海・瀬戸内海航路)廻船で、これを介して海産物や情報が交流し、寄港各地の発展を促した。今回は、関西ではあまり知られていない寄港地の特産品を紹介し、かつての北前船の再現を目指す。各地の郷土食をはじめ、東北三大祭りのねぶた祭(青森)、竿燈まつり(秋田)、七夕まつり(仙台)も披露される。

2013年に「和食」がユネスコ世界無形文化遺産に登録され、今や日本の食文化は世界の注目を集めている。2020年東京オリンピック・パラリンピックを3年後に控え、'17食博覧会は健康的な日本食の魅力を世界に広める絶好の機会として、官民の意気込みが高まっている。

### 賑やかに「開催1年前決起大会」を開催

食博覧会実行委員会は、今年4月28日、リーガロイヤルホテル(大阪市北区)で、実行委員をはじめ行政関係者、出展予定者、マスコミ関係者など約500人による「'17食博覧会開催1年前決起大会」を開催した。冒頭、実行委員会会長の本莊武宏氏(大阪ガス株式会社代表取締役社長)は、「和食がユネスコ世界無形文化遺産に登録されて初の開催となり、出展者募集説明会に多くの団体が参加するなど、食博に対する関心は高い。1年後の成功に向けて、“チーム食博”の結束を高めよう」と呼びかけ、和太鼓演奏(打打打団太鼓)の披露で、大阪らしく賑やかに士気を盛り上げた。

会場には東北、近畿、中国、九州、沖縄から14府県のPRブースや、地方新聞協賛による郷土食の試食コーナーも設置。この日は前売券の発売日にもあたり、決起大会で販売した前売券の売り上げは、同月14日に発生した熊本地震の復興支援として、全額熊本県に寄付された。



食博成功に向け声を上げる実行委員会役員

# ヴァイオリニスト・五嶋みどりさんが来訪 万博基金助成に感謝の意を込め演奏を披露

世界的に活躍するヴァイオリニストの五嶋みどりさんが、6月7日、関西・大阪21世紀協会を訪れ、同行した海外の若手演奏家とともに演奏を披露しました。

協会は、日本万国博覧会記念基金事業として、五嶋さんが理事長を務める「認定NPO法人ミュージック・シェアリング」の活動を助成しており、五嶋さんは助成に対する感謝の意を表し、協会を来訪されました。五嶋さんたちは、協会がある中之島センタービルの会議室でドヴォルザークやメンデルスゾーンの弦楽四重奏曲を約1時間演奏し、協会職員や賛助会員など約100名が間近で聴き入りました。

ミュージック・シェアリングは、本物の音楽(完成度・芸術性の高い音楽、音楽家の人間性に触れる経験)を通して子どもたちの豊かな心を育てる活動を行っています。音楽家との交流を望む子どもたちや、さまざまな事情でコンサートホールへ足を運ぶ機会の少ない子どもたちのために、全国の学校、特別支援学校、児童施設、子ども病院などを訪問して演奏や楽器指導などを実施。アジアの国々でも



行われ、これまでにベトナム、カンボジア、インドネシア、モンゴル、ラオス、バングラデシュ、ミャンマーの学校や児童施設などで活動を行ってきました。また、若手演奏家の社会貢献活動の場としての側面も持ち、世界からオーディションで選ばれた若手演奏家3名と五嶋さんがアンサンブルを結成し、訪問ツアーを行っています。今回来訪したメンバーは、そうした世界トップレベルの演奏家たちです。

終演後、協会の堀井良股理事長は、「五嶋さんたちの本物の音楽を生で聴いた子どもたちは、この宝物のような経験を一生忘れることはない。ミュージック・シェアリングの活動は、非常に貴重で価値がある」と話し、五嶋さんたちの活動を讃えました。

## 五嶋みどり

11歳でニューヨーク・フィルとの共演でデビュー以来、世界のトップヴァイオリニストとして欧米でも最もポピュラーな音楽家。演奏活動に加え、20年以上日米を中心に地域密着型の社会貢献活動を展開し、音楽家による社会活動のモデルとして先導的役割を果たす。南カリフォルニア大学ソーントン音楽学校「ハイフェッツ・チェアー」兼特別教授。2007年より国連ピース・メッセンジャー。使用楽器は1734年作のガールネリ・デル・ジェス「エクスターベルマン」。

演奏中の五嶋みどりさん(右)



右から、五嶋みどりさん(ヴァイオリン)、ロビン・ボリンガーさん(ヴァイオリン)、マイケル・カツツさん(チェロ)、ウィリアム・フランプトンさん(ヴィオラ)

## 平成28(2016)年度助成事業のご紹介

平成28年度の日本万国博覧会記念基金事業では、国内外62事業に総額1億円の助成を決定しました。その中から今年4～6月に実施された助成事業のいくつかをご紹介します。

### 第4回 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭

事業者：一般社団法人 KYOTOGRAPHIE

交付決定額：190万円

実施期間：2016年4月23日～5月22日

実施地：京都市内の寺社や町家、美術館など15会場

歴史的特色のある寺社や町家、個人邸宅や近代建築など15会場、国内外の精鋭写真家数十名が展覧会を同時開催しました。会場は作品に合ったかたちにデザインされ、日本の伝統工芸の職人技術や企業の最先端技術とのコラボレーションで、写真芸術の新しい見せ方を追求。さまざまな角度から写真の奥深さや豊かさを体感できるアートフェスティバルとなりました。国内外の多彩な分野からゲストを招き、個別にアドバイスを受けることができる交流イベントや、出展アーティストのトークイベントなども多数展開。期間中8万8,632人の来場者で賑わいました。



アルノ・ラファエル・ミンキネン「Fosters Pond」、1989年  
©Arno Rafael Minkkinen courtesy PUG OSLO



ティエリー・ブエット  
「生後9分の女の子」  
2008年  
©Thierry Bouët

### 能舞「呼子鳥」

事業者：談山神社呼子鳥の会

交付決定額：80万円

実施期間：2016年6月11日

実施地：談山神社 権殿(奈良県桜井市)

本公演は、藤原鎌足公を祀る談山神社で新作の能舞「呼子鳥(よぶこどり)」を披露することで、同社が能楽発祥の地であることを世に広め、伝統芸能である能楽の認知度を高めようと開催されました。狂言方の男性1名以外は、シテ方、鼓、笛などをすべて女性が演じる珍しいもので、会場の権殿は130名の入場者で満員となりました。ちなみに談山神社の社号は、中大兄皇子(後の天智天皇)と中臣鎌子(後の藤原鎌足)が多武峰(とうのみね)の山中で大化の改新(645年)の談合を行い、この山が「談(かたら)い山」と呼ばれたことにちなむといわれています。



「呼子鳥」の公演風景 (写真提供:奈良新聞社)



談山神社 (写真提供:倭写真資料)

### 東京藝術大学アフガニスタン特別企画展 素心 バーミヤン大仏天井壁画～流出文化財とともに～

事業者：東京藝術大学アフガニスタン特別企画展実行委員会

交付決定額：250万円

実施期間：2016年4月12日～6月19日

実施地：東京藝術大学 大学美術館 陳列館

アフガニスタン内戦の混乱で海外に流出した文化財87点と共に、過激派組織によって破壊された天井壁画「天翔る太陽神」を、東京藝大が3DCGによるデジタル画像処理技術と人の手による質感の再現・彩色というアナログ技術を融合し、原寸大に3次元に復元して公開しました。アフガニスタン政府の閣僚級要人を招聘し、「文化財難民の母国返還式」も執行。期間中に開催された伊勢志摩サミット会場にもこの天井壁画の縮小版が展示され、各国の首脳が観覧しました。これらのニュースは新聞やテレビで報道され、期間中の入館者は約5万6,000人にのぼりました。



安倍総理大臣訪問の様子



展示会場1階風景

## おかげさまで発足2年

# 「アーツサポート関西・サポーター感謝のつどい」開催

2014年4月に発足したアーツサポート関西(事務局：関西・大阪21世紀協会)が2周年を迎え、おかげさまでこの2年間で約5,000万円の寄付を集めることができました。その感謝の気持ちを込めて今年3月23日、大阪能楽会館と梅田クリスタルホール(大阪市北区)で、サポーターへの「感謝のつどい」が開催されました。

第1部は大阪能楽会館を会場に、アーツサポート関西から助成を受けたアーティストたちが成果を披露。関西フィルハーモニー管弦楽団メンバーによる室内楽演奏や、吹田市出身の新進ヴァイオリニスト・内尾文香さん(東京藝術大学1年生)による独奏、豊竹英太夫さん(義太夫)、竹澤團七さん(三味線)、吉田和生さん(人形遣い)らによる人形浄瑠璃文楽が、厳かな能舞台上で展開されました。

第2部は隣接する梅田クリスタルホールに会場を移

し、交流パーティーを開催。協賛各企業から提供された賞品が当たるチャリティー福引抽選会や、音楽や演劇などのアーティストたちが行うPRブースの人気投票などで盛り上がりました。福引抽選会の売り上げ(20万8,000円)の一部は、PRブースの人気投票でトップの団体に贈られ、有効票数153票中34票を集めた関西フィルハーモニー管弦楽団に6万2,400円が贈られました。また、第1部で演奏を披露した内尾文香さんの突然の“フラッシュモブ演奏”もあり、アーティストを含め約350人の参加者が集う和やかで心温まる交流会となりました。

国も地方も文化予算を削減する傾向にあるなか、アーツサポート関西は民による芸術・文化支援の新しい仕組みとして、大阪・関西の経済団体のトップなどが発起人となってスタートしました。2014年からの2年間で、32団体・総額2,000万円の助成を行いました。

### 大阪能楽堂にて



関西フィルハーモニー管弦楽団メンバー 左から、虎谷朋子さん(フルート)、野口まつのさん(ヴァイオリン)、田代直子さん(ヴィオラ)、日野俊介さん(チェロ)



豊竹英太夫さん(左)と竹澤團七さん(右)



吉田和生さん



内尾文香さん

### 梅田クリスタルホールにて



PRブース

内尾文香さんを囲む参加者

内尾さんは今年9月30日、いずみホール(大阪市中央区)において、オーギュスタン・デュメイ指揮による関西フィルハーモニー管弦楽団と共演予定。

寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金

## 第2回上方落語2016 若手噺家グランプリ決勝戦

### 笑福亭たまさんが新作落語で優勝

上方落語の伝統継承と若手噺家の育成を目的として、アートコーポレーション株式会社の寺田千代乃社長からのご寄付で設けられた「寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金(500万円)」による助成のもと、「上方落語若手噺家グランプリ」が開催されました。今年6月23日、天満天神繁昌亭(大阪市北区)で39名の中から予選を勝ち抜いた10名による決勝戦が行われ、在阪のテレビ・ラジオ局7社のプロデューサーらの審査の結果、笑福亭たまさん(41)が優勝しました。



寺田千代乃氏

たまさんは1975年大阪府貝塚市で生まれ、京都大学経済学部を卒業後、1998年に笑福亭福笑に入門。古典落語に加え新作落語にも意欲的に取り組み、文化庁芸術祭新人賞(2004年)、繁昌亭創作賞(2009年)、咲くやこの花賞大衆芸能部門(2010年)など多くの受賞歴があります。決勝戦の演目は新作落語『憧れの人間国宝』。やっとの思いで重要無形文化財保持者(人間国宝)になった文楽人形遣いの重鎮が、認定式直前に急死してしまい、一計を案じた弟子たちが、人形よろしく師匠の亡骸を遣って認定

式に臨むという奇想天外なストーリーで、観客を大いに沸かせました。

寺田氏から賞金20万円と記念盾を受けたたまさんは、「このグランプリで優勝するのが幼い頃からの夢」と笑わせ、「決勝に勝ち残ったのはコンクールで賞の取り方を熟知した噺家ばかり。その中で優勝できたことは、今までで一番うれしい」と声を弾ませました。同席した桂文枝さん(上方落語協会会長)は、「4回もの予選を勝ち抜いてきただけあって、皆、個性やネタの選び方が際立っていた。これを機にどんどんテレビやラジオに出て、有名になってほしい」と激励しました。

同グランプリは、寺田千代乃上方落語若手噺家支援寄金を使って10年間開催する予定で、今年は第2回。今回は入門4~20年の若手・中堅クラスが対象となり、昨年にも増してハイレベルな高座が展開されました。



口演中の笑福亭たまさん

## ●●● 寄付型自動販売機設置ご協力をお願い ●●●

### 関西の芸術・文化支援にご活用ください

アーツサポート関西では、売り上げの一部が寄付となる「寄付型自動販売機」の設置を進めています。飲料水の自動販売機の設置をご検討いただけそうな方、もしくは設置場所をご紹介いただける方は、アーツサポート関西事務局までご一報ください。自販機オペレーティング会社の担当者が、設置場所や手数料などのご説明に伺います。

※寄付額は自販機のタイプや商品、売り上げに応じて決まります。売り上げや寄付額の算出、お振込は、すべて自販機オペレーティング会社が代行します(自販機設置者の方には、電気代を負担していただきます)。  
※設置場所や売上状況によっては設置できない場合があります。

### 寄付型自販機を設置すると…

- 負担が少ない (販売された飲料の売り上げから寄付)
- 長く続けられる (一度設置すれば持続的な寄付が可能)
- 効果が大きい (1台で年間数万円程度の寄付が可能)



お問い合わせ

アーツサポート関西 事務局  
関西・大阪21世紀協会内(担当:大島)  
TEL 06-7507-2004  
E-mail oshimas@osaka21.or.jp

# 関西釣り文化を探る (第1回) 佐々木 洋三

関西には日本文化の中でも先駆的な役割を果たしてきた文化がたくさんあります。釣りもその一つですが、様々な情報が東京から発信されるので、いつしか関西人もそうした事実を見失ってきました。(株)シマノのソルトルアーフィッシングのアドバイザーで、当協会の専務理事 佐々木 洋三が関西の釣り文化を様々な視点から探っていきます。

## 御食国(みけつくに)

古代から朝廷に「御贄(みにえ)」として魚介類を納めた国の中で、万葉集には若狭国、志摩国、淡路国が御食国と詠われています。もちろん宮廷が関西にあったためですが、いずれも九頭竜川や木曾三川、淀川などの一級河川が注ぐ好漁場でした。また、平城京跡から出土した木簡の中に御贄を送る際につけた荷札が発見されていることも、御食国の根拠です。ちなみに平城京の木簡には「若狭国 遠敷郡青里 御贄 多比鮓 壹かく」(若狭国の鯛の寿司を献上した)という荷札が見つっています。鯛一つとっても木簡には鯛、多比、タビなど様々な表現がありました。保存食として寿司の存在を示す最古の資料であることから若狭高浜は寿司発祥の地と名乗り上げましたが、何しろ天皇に献上する食材ですから、品質や味には最大の配慮がなされたと思います。このように釣り文化は食文化とともに発展してきたといえるでしょう。

## 古代の「大阪市民」は漁民

古代より大阪湾南岸一帯は「ちぬ(茅渟)の海」と呼ばれていました。茅渟は和泉国あたりの古称、茅(かや)の生えた野を意味します。本居宣長の「古事記伝」には、クロダイは「ちぬの海」の名産物であったことから、魚名に「ちぬ」という地方名がついたとされています。「なにわ」の語源は、魚がたくさんいる魚の庭とかいて「魚庭(なにわ)」という説もあり、現在でも大阪湾には食用とされる魚介類だけで約230種が確認されています。淀川や大和川などの河川から豊富な栄養分が流れ込み、さらに、明石、紀淡というふたつの海峡があるため、海水が循環し、様々な暖流系の魚が豊富な瀬戸内海へ入ってきました。

司馬遼太郎氏は『大阪の原形』という短編の中で古代大阪を次のように記しています。“四天王寺が造営(593年)されたころに、もし「大阪市民」の先祖がいたとすれば、それは恐らく漁民であった。古代の淀川河口、大阪湾一円には多くの漁民が住み、古代のことばで「あま」と呼ばれた。漢字では「海人」とか「白水郎(はくすいろう)」と書き、そのグループを海人部(あまべ)・海部(あまべ)と書いた。漁の仕方は、網で魚をとらえるだけでなく、海にもぐってモリで魚を突き、貝をとり、また海藻を採った。海藻をとるのは、それを焼いて塩をとる

ためである。三世紀に編纂された中国の史書『魏志』の「倭人伝」に古代日本人の特徴として「倭ノ水人、好ク沈没シテ魚ヲ捕フ」と書かれている。中国人は決して水にもぐることをしないから、この「沈没して」というあたりに、驚異がこめられている。古代の大阪湾は、漁場として偉大だった。古代から近世にいたるまで、沿岸漁業の技術の蓄積と進歩を生んだ海である。とくに河内(大阪市の郊外)や大和(奈良県)に所在した宮廷のために、海人は魚や貝をとり、塩をつくった。このため淡路島をふくめて、宮廷の直轄の漁師ということになっていた。住吉大社の祭神は海と海底をつかさどる神であり、かれら漁師たちが、自分たちの神であるとして崇敬していた”と。



古代から漁民たちが崇めた住吉大社

## 紀州釣りは千葉へ

そんな豊饒の海だから、大阪湾の漁業の歴史は縄文時代にさかのぼります。また、中世には日本の漁業の中心地として、優れた漁労技術が房総半島や対馬に伝えられました。和歌山県雑賀崎の漁師が東に釣り進むうちに、紀伊半島とよく似た形状の半島を発見、そこが房総半島です。大原にはマダイの紀州ビシマ釣りが伝わり、独自の発達を遂げました。白浜や勝浦という地名が付けられたのも偶然ではありません。あわせて、湯浅の醤油文化が銚子や野田に伝来したのです。このように関西の釣りと食の文化が、密接に絡んで各地に伝わっていきました。



# イベント報告

関西・大阪21世紀協会は、「交流と助成」「伝統と創造」「発掘と発信」の3つを事業の柱としています。ここではそのなかのいくつかをご報告します。

## 伝統と創造

### 住吉大社御田植神事

6月14日／住吉大社(大阪市住吉区)

今から1800年前、神功皇后が住吉大社に神田を設け、長門国(現在の山口県)から植女を召して御田植奉仕をさせたことにはじまる御田植神事(重要無形民俗文化財)。御田に設えた中央舞台上で、御稔女(みとしめ)による神田代舞(みとしろまい)や、田の周囲で無形文化財の住吉踊りなどが奉納され、多くの参拝者が見入っていました。植え付けられた苗には、強力な穀霊が宿るといわれ、秋に収穫されると神前に供えられます。この神事は明治維新



神田代舞を奉納する御稔女役の安田千尋さん(高校生)。



御田植風景

に際して廃絶の危機に遭遇しましたが、大阪新町廓の芸妓が植女となって廃絶の危機を救いました。現在は関西・大阪21世紀協会(上方文化芸能運営委員会)などが、大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能として支援しています。

## 平成OSAKA天の川伝説

7月7日／天満橋～天神橋一帯の大川

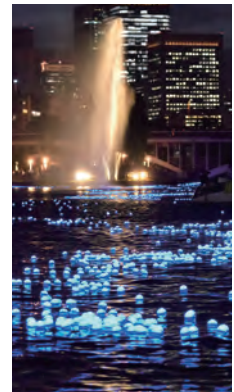
主催：(一社)おしるなにわ

共催：(公財)関西・大阪21世紀協会

天空の「天の川」を地上の川で再現する、市民参加イベント。第8回の今年は、天満橋～天神橋一帯の大川に約4万個の「いのり星®」(LEDの光球)が放流されました。主会場の八軒家浜船着場では、オペラ歌手の増田いずみさんたちによる七夕コンサートが開催され、美しい音楽とともに約6万人が幻想的な光景を楽しみました。七夕限定メニューなどを販売するグルメブースも設置。天満橋発祥の「天の川カクテル(BAR CADBOLL)」や



増田いずみさん(中央)たちによる七夕コンサート



大川に浮かぶ「いのり星®」

「天の川☆スタードーナツ(ルポンドシエル)」などが人気でした。

## 発掘と発信

南大阪・上町台地フォーラム

### 日本最古のダム式ため池「狭山池」

3月29日／大阪府立狭山池博物館(大阪狭山市)

主催：(公財)関西・大阪21世紀協会

古事記や日本書紀にも記載される「狭山池(大阪狭山市)」は、今から1400年前の7世紀初めに築造されました。現在は国の史跡に指定されています。参加者は、現地の見学と併せ、狭山池の土木遺産を保存・展示している狭



ボランティアガイドの説明を受ける参加者(狭山池博物館)

山池博物館を訪れ、古代人の治水に対する思いや、かんがい、土地開発の技術力を見学しました。

五代目中村雀右衛門襲名披露

### 七月大歌舞伎「船乗り込み」

6月29日／大川(八軒家浜)～道頓堀川(戎橋)

関西歌舞伎を愛する会、株式会社松竹座



中村雀右衛門さん(関西・大阪21世紀協会にて)



戎橋(とんぼりリバーウォーク)にて

1979(昭和54)年に55年ぶりに復活し、毎年7月の大歌舞伎公演の前触れとして水都大阪の風物詩となった「歌舞伎船乗り込み」。今年は中村芝雀さんの「五代目中村雀右衛門」襲名披露ともなり、東西の豪華な顔ぶれが勢揃いしました。八軒家浜(大川)を出て戎橋(道頓堀川)に着くと、河畔から「京屋!(雀右衛門さんの屋号)」のかけ声が飛び、雀右衛門さんが手を振って応えていました。七月大歌舞伎は「関西歌舞伎を愛する会」が取り組んでおり、関西・大阪21世紀協会はその世話人を務めています。

日本万国博覧会記念基金助成事業

## 活動の助成を受けたい団体を募集します。

平成29年4月1日～30年3月31日までの間に実施される事業で、  
万博の成功を記念するにふさわしく、かつ下記の公益的な活動を対象として助成します。

**申請書受付期間** 平成28年**9月1日(木)～9月30日(金)** 当日消印有効

### 助成対象事業と助成金額

#### (1) 国際相互理解の促進に資する活動

- 国際文化交流、国際親善に寄与する活動  
(平成29年度重点テーマ)
- 学術、教育、社会福祉、医療及び保健衛生に関する国際的な活動
- 自然の保護その他、人間環境の保全に関する国際的な活動

#### 助成金額

100万円～1,000万円の範囲内で、助成対象事業費の合計額の1/2以内。

※事業者は助成対象事業費の1/2以上を自己資金等で賄う必要があります。  
※下記の事業形態の中からいずれか1事業で、下記の通り助成の限度額を定めています(審査の結果によって限度額を下回ることがあります)。  
公演・展示(400万円)、国際会議(300万円)、図書購入(200万円)、図書刊行・フィルム・テレビ番組・ホームページの制作等(300万円)、招へい・派遣(300万円)、日本語教育用機材の購入(500万円)、日本語教育用機材以外の機材購入(800万円)、施設の建設または整備(1,000万円)、国際博覧会への出展(1,000万円)

#### (2) 文化的活動

- 日本の伝統文化の伝承及び振興活動(平成29年度重点テーマ)
- 芸術及び地域文化に関する活動

#### 助成金額(下記AまたはBのいずれかを選択できます)

- A: 助成対象事業費の合計額の1/2以内。  
→ 事業形態にかかわらず100万円から400万円までの範囲内。
- B: 定額交付  
→ 助成対象事業費に応じて50万円から100万円までの範囲内。

**助成予定総額** 9,200万円

募集要項および申請書は協会ホームページからダウンロードできます。  
<http://www.osaka21.or.jp/jecfund/>

#### お問合せ・申請書送付先

〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階  
(公財) 関西・大阪21世紀協会 万博記念基金事業部  
☎06-7507-2003 E-mail: jec-fund@osaka21.or.jp

楽しむ 学ぶ 語り合う

## イベントインフォメーション

### 大阪城フェスティバル

Power of Culture in OSAKA2016

## オーギュスタン・デュメイ、能と関西フィルがコラボ

2016年 **11月21日(日)** ▶ NHK大阪ホール(大阪市中央区)

大阪城フェスティバル(7月1日～11月30日)参加プログラムとして、関西・大阪で活躍する文化人、経済人と世界のトップアーティストが一堂に会するBEYOND2020に沿ったコアイベントを開催します。注目企画は、世界最高のヴァイオリニストのひとりオーギュスタン・デュメイ(フランス)と関西フィルハーモニー管弦楽団による夢の共演や日本の古典芸能とのコラボレーション。学生であれば、SNS発信を条件に入場料の無料化も検討中。周辺イベントとして、日本の伝統祭事などの紹介も予定しています。

BEYOND2020(ビヨンド・トゥエンティ・トゥエンティ)… 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムで、文化芸術立国の実現に向け、2020年以降も国をあげて多様な芸術文化活動の発展を目指す運動。



オーギュスタン・デュメイ(中央)と  
関西フィルハーモニー管弦楽団

**主催/お問合せ** (公財) 関西・大阪21世紀協会 ☎06-7507-2006

#### 関西・大阪21世紀協会賛助会員 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

#### 会費(何口からでも結構です)

- 法人会員 1口につき年会費10万円
- 個人会員 1口につき年会費1万円

お問合せ (公財) 関西・大阪21世紀協会 総務部

#### 特典

1. 協会が発行する刊行物の配布
2. 協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3. 賛助会員の参考となる情報・資料の提供など